

平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (小学校)

教科ごとの「教科の観点」における平均正答率の比較

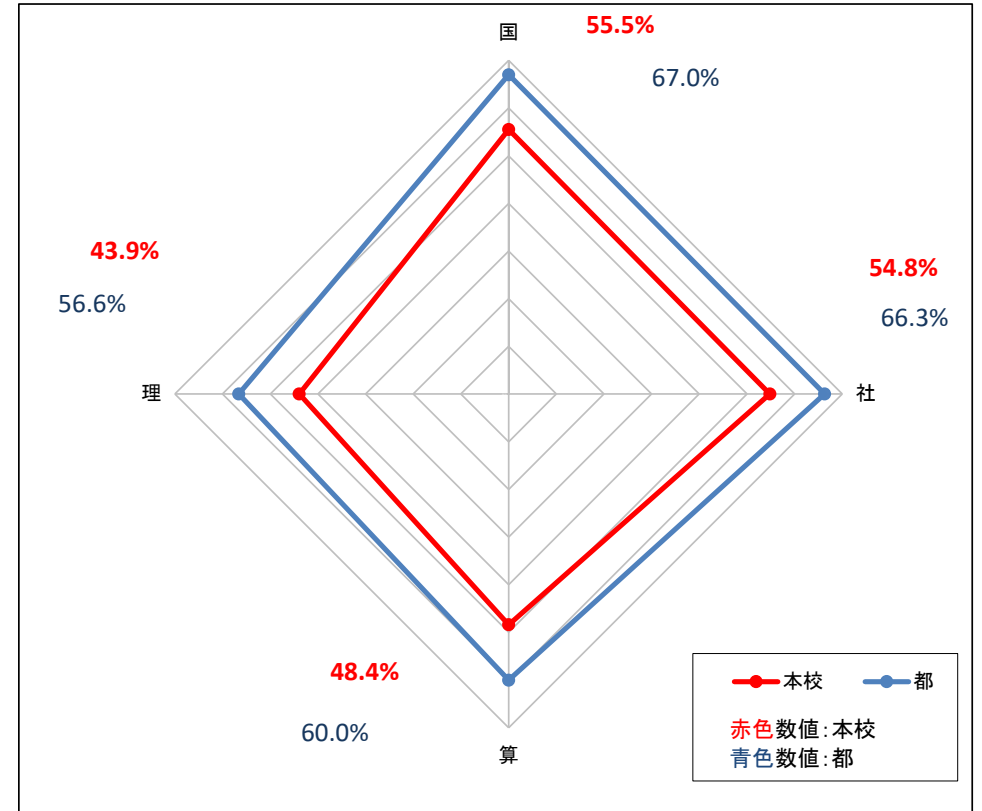
大杉東小学校

国語	教科の観点				教科の合計
	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
東京都	65.9%	70.9%	67.1%	65.9%	67.0%
本校	56.2%	66.3%	51.3%	53.6%	55.5%
都との差	-9.7	-4.6	-15.8	-12.3	-11.5

社会	教科の観点			教科の合計
	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 of 技能	社会的な事象についての知識・理解	
東京都	63.1%	66.5%	69.8%	66.3%
本校	50.9%	56.8%	55.2%	54.8%
都との差	-12.2	-9.7	-14.6	-11.5

算数	教科の観点			教科の合計
	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	
東京都	46.4%	65.2%	67.8%	60.0%
本校	34.5%	54.3%	55.1%	48.4%
都との差	-11.9	-10.9	-12.7	-11.6

理科	教科の観点			教科の合計
	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	
東京都	52.9%	66.4%	55.0%	56.6%
本校	42.5%	56.0%	39.1%	43.9%
都との差	-10.4	-10.4	-15.9	-12.7



《都との比較にみる本校の状況》

【都平均との関係】
 すべての教科で都平均を11～12ポイント下回る結果となった。特に理科においては、都平均から12.7ポイント下回っている。教科の観点では、国語「書く能力」が最も都平均に近く、国語「読む能力」と理科「知識・理解」が16ポイント近くを下回る結果となっている。

【各教科の課題】
 〈国語〉物語文において、登場人物の関係や場面の様子を正確に捉えて読むことに課題があるとともに、主語・述語・修飾語の関係についての知識・理解の定着が不十分であった。
 〈社会〉23区や都道府県の位置が知識として不十分である。また、図の中の矢印の意味が理解できない等、資料の情報の読み取りに課題がある。
 〈算数〉ひし形や台形など様々な四角形について、辺や対角線の特徴の理解が十分でない。また、様々な既習事項を活用し、段階的に解決する問題に低い正答率を示した。
 〈理科〉直列つなぎや並列つなぎの特徴が定着していないなどの知識・理解に課題があった。また、実験結果を基に問題に照らし合わせて考察を見る問題で、低い正答率となった。

《授業改善のポイント》

○基礎基本の定着を図る。
 ・主語・述語の関係や都道府県の名称など、知識・理解に関する事項は、特に設的に指導しつつ、他教科の学習の中でも意識し、繰り返し指導する。

○問題解決的な学習の充実を図る。
 ・「つかむ→調べる→まとめる」など問題解決学習のスタイル(形)を明確にし、児童が学習の流れを理解できるようにする。
 ・学習のめあてを児童一人一人が把握し、課題に取り組む。
 ・表やグラフを活用し、問題解決のためにデータ(情報)を処理する学習活動を展開する。また理科では観察・実験の結果を、問題や予想に照らし合わせて考察する指導の充実を図る。

○話し合い活動の充実を図る。
 ・「主語・述語で話す」「話している人を見て聞く」など、話し合いの基本を徹底し、児童同士で意見の交流を深める活動を充実させる。
 ・話型の提示をし、児童の言語環境を充実させる。

○児童の関心・意欲を高めていく授業の改善に取り組む。
 ・繰り返し問題に取り組ませることで、児童にできる喜びを味わわせていく。
 ・体験・実験活動を大切にすることで、児童が新しい事象と出会い、事象への興味・関心を高めていく。

《家庭・地域への働きかけ》

・宿題をはじめとする、家庭学習の定着を図る。また、家庭学習週間では、児童の学習状況を保護者と共有し、学習支援の充実を図る。

・学期のはじめに「東5 アップカード」配布し、生活習慣の状況を保護者と共有、教育効果の向上を図る。

・言語活動の充実のために、語彙力の向上が必要である。そのことから、家庭において、読書週間中はもちろん、日頃の家庭学習でも読書の推進を呼びかけていく。